駒大 残り2キロ逆転

DAIWA DAIWA LAND GROUP
大和地所
大和地所グループは横浜DeNAベイスターズを応援しています。

かながスポ
☎045-227-0170 FAX045-227-0167
E-mail: sports@kanagawa-np.co.jp

箱根駅伝

第97回東京箱根間往復大学駅伝最終日は3日、箱根町から東京・大手町までの復路5区間、109・6キロに関東20校とオープン参加の関東学生連合を加えた21チームが参加して行われ、往路3位の駒大が10時間56分4秒で13年ぶり7度目の総合優勝を果たした。3分19秒差で迎えた最終10区の残り約2キロで石川拓慎が創価大を捉え、区間賞の走りで逆転した。

＝本記1面に

駒大は昨年11月の全日本大学駅伝と合わせ、今季2冠。4度目の出場で往路を初制覇した創価大は過去最高の総合2位に入った。東洋大は往路から順位を一つ落として3位だった。前回総合優勝の青学大は往路12位の不振から2年ぶり6度目となる復路優勝で挽回して4位となった。

東海大が5位、早大が6位。総合7位以下は順大、帝京大、国学院大と続き、10位の東京国際大までが来年のシード権を獲得した。11位は明大だった。昨年の3区に続き2区で区間記録を塗り替えた東京国際大のビンセント・イエゴンが最優秀選手に選ばれた。

新型コロナウイルス感染対策を選手らに徹底し、沿道での応援も自粛が呼び掛けられた。

10区で創価大の小野寺勇樹（左）を追い抜き、トップに立つ駒大の石川拓慎＝東京都内（代表撮影）

10区 石川 3分19秒差一気

3年生奮起 V導く

9区を終えて差は3分19秒。駒大の総合制覇は絶望的かと思われた。しかし、23キロの最終10区で創価大との差がみるみる縮まる。20キロ付近で大八木監督から「男だろ」とハッパを掛けられた石川は「スイッチが入った」。残り約2キロで捉え、一気に前へ出た。走りながら笑みをこぼしたアンカーは両拳を握りしめてフィニッシュ。観客が入れないよう制限された静かなゴール地点に雄たけびがこだましました。

97回を数える大会でも歴史に残る最終区での大逆転。上位10人の1万メートル平均タイムがトップという地力の高さを、粘り抜いて証明した。13年ぶりに頂点に立った大八木監督も「びっくりした。諦めなければ何が起きるか分からない。本当にうれしい」と感極まった。

優勝に導いたのは復路に起用された3年生だった。「レベルが低い」と厳しく批判もされてきた世代が奮起。6区の花崎が区間賞の走りで巻き返しの流れをつくると、8区の佃も先頭と差を縮めた。

10区の石川は「やってやろうと思った」と区間1位の結果で留飲を下げ、指揮官に「3年生に救われた」と言わせてみせた。

下級生の台頭がチーム内の競争を促し、戦力の厚みが増した。今季は全日本と箱根の2冠。今大会で走った4年生は1人だけで、来季の期待も膨らむ。大八木監督は「三大駅伝を取りにいきたい」と、新型コロナウイルスの影響で昨秋は中止された出雲全日本選抜と合わせた「3冠」に意欲をのぞかせた。

箱根駅伝復路の経過

- 6区 20.8キロ：創価大が首位を守った。駒大の花崎が区間賞の走りで東洋大をかわして2位に上がり、差を約1分に縮めた。東海大が5位から3位に浮上
- 7区 21.3キロ：首位の創価大は原富が区間2位の走りでリードを広げた。駒大が1分51秒差の2位、東海大は3位
- 8区 21.4キロ：創価大の永井が首位を維持。2位は1分29秒遅れて駒大。東洋大が東海大を抜き、トップと4分17秒差の3位につけた
- 9区 23.1キロ：創価大の石津は区間賞の快走で、2位駒大との差を3分19秒まで広げた。3位は東洋大。青学大が4位に浮上した
- 10区 23.0キロ：駒大の石川が残り約2キロで先頭をとらえ、一気に突き放した。区間賞を獲得。逃げ切れなかった創価大は2位。東洋大が3位、青学大が4位となった

創価大 最終盤で涙

【創価大区間記録】

区	選手名	学年	記録	区間	総合
6区	浜野　将基	②	58分49秒	⑦	①
7区	原富　慶季	④	1時間3分12秒	②	①
8区	永井　大育	③	1時間5分10秒	⑧	①
9区	石津　佳晃	④	1時間8分14秒	①	①
10区	小野寺勇樹	③	1時間13分23秒	⑳	②

飛躍の2位「堂々と」

往復217・1キロに及ぶ戦いの最後に創価大は力尽きた。顔をゆがめる小野寺の横を駒大の選手が駆け抜けていった。残り約2キロで首位から落ちての総合2位。それでも「選手が頑張ってくれたという思いの方が強い」と語る榎木監督の表情は晴れやかだった。

もともと往路優勝が「想定外」。復路も「100パーセントを出し切る」を合言葉に無欲でレースを引っ張った。7区原富が区間2位、9区石津は「走りやすくて楽しかった」と先頭で風を切り区間賞に輝いた。アンカーは失速したが、榎木監督は「卑屈になることなく、堂々としてほしい」とねぎらった。

「予選会の常連校」だった2年前に就任した指揮官は中大時代に4年連続で区間賞を獲得した実績を持つ。強豪相手の舞台で物おじしがちな選手たちに「タイムが走るのではなく、人が走るんだ」と説き、第100回大会で優勝を争う「5年計画」で鍛えてきた。

有力選手が次々入る環境ではない。「じっくり育成」が信条で、今回も1年生の出場はなし。見込みを3年も短縮する健闘に期待は高まる。明確に足りないものを一人一人が共有できたのではないか」

（須藤　望夢）

6区 浜野（浦賀中出身）

首位快走で恩返し

先陣を切って箱根の山を駆けるのはさぞ爽快だろう。創大の6区を任されたのは浦賀出身の浜野。首位の座を明け渡すことなく、往路優勝の勢いにつないだ。

「えー、1位？」。前日、思ず笑いがこみ上げたという。大会が初陣の2年生。重圧はじたが、気負いすぎることはかった。「3、4位の方が緊したと思う。それに役割は区賞とか後続を離すことではな。設定タイムの59分30秒を切走りをした」

下りは、長野・佐久長聖高時から得意だ。特殊区間を走るため、スピード強化も図ってきから急勾配にも崩れない。58分49秒は設定より40秒以上速かった。

中学では横須賀市代表でかなわ駅伝を走った経験があるが、長野の名門ではけがに泣き、国高校駅伝など大舞台とは無縁だった。「高校では親に恩返しができなかった」。自責の念は大学で悔しさを必ず晴らすという決意に変わった。

トップのまま7区原富にたすきをつなぎ、笑顔を見せる創価大の浜野（右）＝小田原中継所（松村　祐介写す）

右手を突き上げて小田原中継所へ駆け込んだ19歳。「これで少しは恩返しができたかな」。最終盤、苦しさでゆがんだ顔は再び誇らしく輝いていた。

（須藤　望夢）

【駒大区間記録】

区	選手名	学年	記録	区間	総合
6区	花崎　悠紀	③	57分36秒	①	②
7区	花尾　恭輔	①	1時間3分55秒	④	②
8区	佃　康平	③	1時間4分48秒	④	②
9区	山野　力	②	1時間10分4秒	⑥	②
10区	石川　拓慎	③	1時間9分12秒	①	①

ベイ今永「すごく感動」

○…横浜DeNAの今永も、母校の13年ぶりの優勝に興奮したようだ。球団を通じて「大学OBとして誇りに思てう」とのコメントを寄せた。

最終10区でひっくり返す劇的なV奪還だっただけに、ハマのエースは「最終盤での大逆転劇にすごく感動しました」という。現在は左肩手術のリハビリ中だが、歴史に残るレースを繰り広げた後輩ランナーたちから大いに刺激を受けた。

総合成績

①駒大	（白鳥、田沢、小林、酒井、鈴木、花崎、花尾、佃、山野、石川）	10時間56分4秒
②創価大		10時間56分56秒
③東洋大		11時間0分56秒
④青学大		11時間1分16秒
⑤東海大		11時間2分44秒
⑥早大		11時間3分59秒
⑦順大		11時間4分3秒
⑧帝京大		11時間4分8秒
⑨国学院大		11時間4分22秒
⑩東京国際大		11時間5分49秒
⑪明大		11時間6分15秒
⑫中大		11時間7分56秒
⑬神奈川大		11時間8分55秒
⑭日体大		11時間10分24秒
⑮拓大		11時間10分47秒
⑯城西大		11時間11分20秒
⑰法大		11時間13分30秒
⑱国士舘大		11時間14分7秒
⑲山梨学院大		11時間17分36秒
⑳専大		11時間28分26秒
関東学生連合		11時間18分10秒

（駒大は13年ぶり7度目の優勝。10位までが来年のシード権獲得。関東学生連合はオープン参加のため順位なし）

復路成績

①青学大	5時間25分33秒
②駒大	5時間25分35秒
③中大	5時間28分39秒
④早大	5時間28分47秒
⑤創価大	5時間28分48秒
⑥国学院大	5時間29分30秒
⑦明大	5時間30分12秒
⑧順大	5時間30分32秒
⑨東洋大	5時間30分34秒
⑩東海大	5時間31分9秒
⑪帝京大	5時間33分29秒
⑫東京国際大	5時間33分43秒
⑬日体大	5時間33分46秒
⑭神奈川大	5時間35分15秒
⑮城西大	5時間35分36秒
⑯拓大	5時間35分46秒
⑰法大	5時間36分16秒
⑱国士舘大	5時間36分19秒
⑲専大	5時間38分30秒
⑳山梨学院大	5時間38分58秒
関東学生連合	5時間32分24秒

（関東学生連合はオープン参加のため順位なし）

【区間1位記録】

▽6区（20.8キロ）
花崎悠紀（駒大）　57分36秒

▽7区（21.3キロ）
佐伯涼（東京国際大）　1時間3分10秒

▽8区（21.4キロ）
大保海士（明大）　1時間3分59秒

▽9区（23.1キロ）
石津佳晃（創価大）　1時間8分14秒

▽10区（23キロ）
石川拓慎（駒大）　1時間9分12秒

◇箱根駅伝最近10大会の優勝校

年	総合	往路	復路
2012	東洋大	東洋大	東洋大
13	日体大	日体大	駒大
14	東洋大	東洋大	東洋大
15	青学大	青学大	青学大
16	青学大	青学大	青学大
17	青学大	青学大	青学大
18	青学大	東洋大	青学大
19	東海大	東洋大	青学大
20	青学大	青学大	東海大
21	駒大	創価大	青学大

神奈川大13位

1年生の走りに光明

往路8位の神奈川大は総合13位に沈み、4年ぶりのシード権獲得を逃した。大後栄治監督(56)は「悔しい。シードを取るのは簡単なことではない」とほぞをかんだ。

6区の1年宇津野が順位を二つ押し上げるも、7区落合が区間17位とブレーキ。「（落合は）予選会を経験していなかった。不安が的中した」と指揮官。傾いた流れを立て直せなかった。

ただ、光明は1年生の走りだろう。9区高橋こそ腹痛から本来の力を出し切れなかったが、宇津野に加えて、当日エントリーされた10区佐々木も区間2位の好走で片鱗をのぞかせた。

「シード権争いの重圧もあったけど、やる気の方が強かった」と佐々木。悔しさをのぞかせつつ「貴重な経験になった。新入生も入ってくるので、引っ張りながら自分の力を高めていきたい」と前を向く。

往路は上級生の奮闘で8位に食い込み、復路は経験不足をかみしめた。大後監督は言う。「流れを途切れさせてしまうと希望が持てなくなる。明確に足りないものを一人一人が共有できたのではないか」

（須藤　望夢）

【神奈川大区間記録】

区	選手名	学年	記録	区間	総合
6区	宇津野　篤	①	59分26秒	⑫	⑥
7区	落合　葵斗	③	1時間5分47秒	⑰	⑪
8区	安田　響	③	1時間5分37秒	⑪	⑪
9区	髙橋　銀河	①	1時間14分27秒	⑳	⑮
10区	佐々木亮輔	①	1時間9分58秒	②	⑬

ゴールする神奈川大の佐々木。チームは13位に終わった＝東京・大手町（花輪　久写す）

東海大5位

流れつかめず失速

東海大は前回から順位を三つ下げる5位に終わり、最後まで流れをつかみきれなかった。

山下りの6区川上が区間5位の2人抜きで順位を3位に押し上げるも、勢いが続かない。8区は区間15位で再び全体順位を落とし、両角速監督(54)は「どこ（のチーム）も粘り合う中で、キープできなかった」と肩を落とした。

トラックを中心にスピード化を図る取り組みは例年通りだが、今季はコロナ禍でトレーニング不足に陥った。レースの高速化で体力の消耗が激しく、15キロすぎから失速するケースが目立った。

指揮官は「内容どうこうよりも、気持ちの部分」と声を落とす。2年前にスター選手たちを擁して初の頂点に立った後、代替わりでメンバーの顔ぶれは様変わりしたが、監督は「もう少し丁寧に指導しなければいけないのに、私も浮ついていたのかもしれない。努力型の選手を見失っていた」と自省した。

今大会を新たに生まれ変わる契機とできるか。指揮官は「しっかりチームをつくり直したい」との言葉で総括した。（織田　匠）

5位でゴールした東海大の竹村＝東京・大手町（花輪　久写す）